

摘 録

会 議 名 令和2年度第2回刈谷市歴史博物館協議会

日 時 令和2年11月21日(土) 午前10時00分～正午

場 所 歴史博物館 1階講座室

出 席 者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、吉田俊英、堀江登志実、山田孝、真島聖子、三浦和美、吉牟田徹也、石橋保尚、成田年秀(敬称略)

※伊東緑委員は欠席

事 務 局：加藤隆司(歴史博物館長兼文化振興監)、加藤謙司(文化観光課長)、中尾理恵(歴史博物館長代理)、五十嵐正也(学芸員)、水野節子(学芸員)

内 容

1 あいさつ

2 議題

(1) 資料購入の基準について

別紙「刈谷市歴史博物館等資料購入要綱(案)」について、条文やその趣旨を説明。

(A 委員) ①美術館の要綱と整合性が取れているか。

②特に高額のものには評価委員会等を設置して、価格に対する評価を行えるものの意見を反映すべきではないか。

③寄贈・寄託の要綱はあるのか。寄贈・寄託の際に第三者の意見を聞くような体制となっているのか。

(事務局) ①この要綱案を作成する時に美術館の要綱との整合性も考慮して作成している。

②資料購入検討委員を選任する際には、特に高額の場合には、価格の評価という点も考慮して選任する。

③寄贈や寄託の要綱は策定している。明文化はされていないが、特に扱いの難しいものの寄贈・寄託の際には、第三者の意見を聞いている。

(B 委員) 資料そのものの評価と価格の評価の2つの評価があり、寄贈や寄託の際も専門家や古美術商に価格の評価をしてもらっているところもある。

(C 委員) 年報に寄贈や寄託の件数が記載されているため、購入とはまた別の対応が必要であると思われる。

(D 委員) 第5条に「購入予定価格が50万円(消費税及び地方消費税相当額を含む。)」とあるが、この根拠は。

(事務局) 随意契約が可能な金額が50万円であるため、50万円を区切りとした。

(2) 令和2年度の今後の予定について

別紙「令和2年度の今後の予定について」にもとづいて、今年度の今後の事業概要について説明。

(B 委員) 徳川家康の遺産展で水野氏に関連する資料が展示されているのはよかった。徳川美術館ではなかなか展示されることがない資料であるが、刈谷で展示されたことは大変意義のあることである。地域史としての資料の活用にこだわりが見えてよかった。引き続き地域に根付いた展示をしてもらいたい。

(E 委員) ①歴史ひろば(常設展示室)の展示替えのスケジュールやどのようなものが展示されるのかわかるとよい。

②研究紀要は有料で販売するのか。

③ガイドボランティアの高齢化に伴い、ボランティアの人員が少なくなっている。また、新しくガイドボランティアになられた人もいるが、経験なしにいきなり対応はできない。どうお考えか。

(事務局) ①ホームページ等で周知を図っているが、確かに周知しきれていない部分があるので、SNS等を活用して周知徹底を図っていく。また、現在データを整理している収蔵品管理システムを用いて、いずれは収蔵品の目録やその画像等を一般向けに公開していく予定である。

②紀要は無料で頒布する予定である。

③次の企画展の収蔵品展で初めて導入するポケット学芸員で解説等を載せることができる。収蔵品のみならず市内の史跡等でも積極的に展開できる。ガイドボランティアのなり手不足の代替案の一つになりうるのではないかと考えている。また、学芸員にももっと専門分野以外にも広く刈谷の歴史に関する知識を習得するように検討していく。

(C委員) ポケット学芸員は非常に良い取組みである。いかにして博物館資料の魅力を伝えるかが博物館の生命線である。取組みに期待したい。

(C委員) 紀要の無料頒布はもったいないのではないかと。知の財産化という面で適正な価格をつけるべきでは。ホームページ等で紀要のデジタルデータを公開しているところもあるが、有料頒布するならば紀要が売れなくなってしまうおそれがある。

(E委員) 市内に散らばっている文化財を守ることが大事である。特に文書類は誤って処分されやすい。博物館側から出向いて積極的に寄贈・寄託につながるように働きかけるべきである。

(D委員) 新型コロナウイルス感染症対策であるが、感染状況に応じて何段階かにステージを分けて対応表を作るとわかりやすい。

(C委員) 歴史ひろば(常設展示)は3つのセクションに特化しており、そのセクションについては深く知ることができるが、それ以外の時代が抜け落ちるのが弱点である。展示室内にコーナーを設けて、なんとかその間の時代をカバーできないか。来年度以降検討してほしい。

(3) 令和3年度の予定について

別紙「令和3年度の予定について」にもとづいて、来年度の事業概要について説明。

なお、議会の議決をもって事業が確定することも併せて説明。

(B委員) 豊臣秀次展を開催することだが、刈谷に関連する資料はあるのか。

(事務局) 豊臣秀次展については3章構成を予定しており、その一つに刈谷をはじめとした三河地域・尾張と秀次の関連を示した章を設ける予定である。確かに秀次関連の資料は少ないが、秀次家臣のものなどはある。当館蔵の市指定津田宣久判物や個人蔵の澤井雄重宛豊臣秀次朱印状などは、秀次がどのように刈谷を支配したかが分かる大変貴重な資料であり、秀次の三河・尾張支配の実態を紹介することができると思う。

(B委員) ぜひ地域に特化した展示になるように期待したい。

(E委員) ①戦時下の刈谷展について、富士松南小学校に疎開した広見小学校の献立表などデータを持っている。同じように、地域に根差した資料は多くあり、それらを調べて展示してもらえるとありがたい。夏休み時期なので、刈谷市内の小中学生が多く来ると考えられるため、子どもが見てもわかるものを展示してほしい。

②発掘成果報告書は引き続き早めに出してほしい。

③井ヶ谷古窯の調査だが、かなりの古窯が滅失していると思う。ぜひがんばって悉皆調査してほしい。

2 その他

全体を通して、以下の通り意見があった。

(F 委員) 引き続き博学連携を推進してほしい。ポケット学芸員はいい取組みである。来年から市内の小中学生にタブレットが配布されるので、ポケット学芸員を利用しやすくなる。市内の史跡にある案内板は大人向けであり、子どもたちには難しい内容である。案内板に QR コードをつけて、ポケット学芸員の音声ガイド機能とリンクさせ、子どもたち用の音声ガイドが流れるようにすれば、子どもたちのまち歩きにも活用できる。

(E 委員) 歴史の小径には掲載されていない史跡がある。それらの史跡を今後追加してもらえると嬉しい。

(A 委員) 展示物のキャプションが長すぎる場合、展示物のキャプションは短くし、詳しい説明をポケット学芸員で行うなど、ポケット学芸員にはさまざまな活用ができると思う。しかし、そのようにする場合、企画展示室でスマートフォンを使用することを認めるため、もし展示品に撮影不可のものがあつた場合、注意する必要がある。しかし、展示品を撮影可にしている博物館・美術館は増えてきているため、どこまで制限するかが難しいところである。

(G 委員) オリンピックの展示は身近に感じる人が多いと思う。

(H 委員) 指導主事が学校現場と博物館をつないでくれたおかげで、小中学生向けのイベントが再開しているのはよいことである。戦時下の刈谷展で小中学生が自発的に調べたり、考えたりするような仕掛けがあるとありがたい。

(I 委員) 子どもが、もの自体からその背景にある歴史を感じ取ることは難しい。映像や CG など刈谷の時代背景というものを描けるとよい。そのような知識を得たうえで物を見るとより一層関心を持ってくれる。リピーター増にもつながるのでは。

最後に、委員の任期が今年 12 月末で終了するため、会長よりあいさつがあつた。